

新自由主義の反動政権を打倒し全世界の帝国主義を打倒せよ！ スターリン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命、世界プロlet 大連主義を組織する世界共産主義者同盟の書簡

号の内容

政治アピール

P1~3

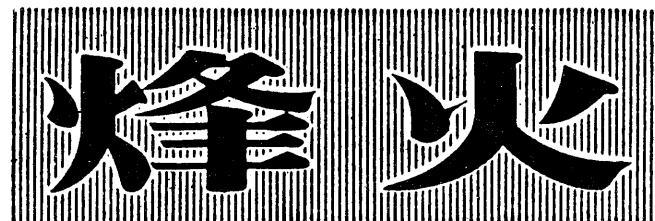
「復帰」20年を迎える沖縄

P6~9

◆北部ルソン爆撃・続報 P4~5

◆(資料)共同決議 P10

1992年
5月1日
第442号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19

明豊ビル401号 大労協内

TEL.(06)371-3706

○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫

○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫

10月国際会議の成功を



日帝打倒掲げるアジア人民

昨年12月、日本大使館前でPKOに反対してピケをはるフィリピンの労働者人民。日帝打倒や侵略反対のプラカードも見える

(次ページにつづく)

現在、自衛隊派兵三法案が国会に上程されている。「国連平和維持活動等に関する協力法案」（PKO法案）、自衛隊法改正案、国際緊急援助隊派遣法改正案の三つである。これらの法案は、日本帝国主義・自民党政権がありとあらゆる手口を使って自衛隊の海外派兵を実現しようとしていることをはっきりと示すものである。日帝は自衛隊海外派兵の最初の焦点を、いわゆる「カンボジア和平のための国連平和維持活動」（カンボジアPKO）への武装した自衛隊部隊の参加に設定してきた。しかし、カンボジアPKOのための国連による「平和維持軍」（PKF）の編成はすでにほとんど終了しており、政府・自民党にとってPKO法案を何としても早期に成立させることがいよいよ切迫した課題となっているのである。

去る三月一五日、UNTAC（国連カンボジア暫定統治機構）が正式に発足した。UNTACとは、国連の名によって米帝や日帝などの帝国主義諸国が暫定的にではあれカンボジアを直接的に統治するための機関である。そして、このUNTACのもとに、一万六千人のPKFを含む総勢一万人以上という史上最大規模のカンボジアPKO展開がおこなわれようとしている。

全國の先進的労働者人民のみなさん！PKO法案をめぐる攻防がふたたび山場を迎えるようとしている。自衛隊の海外派兵策動を粉碎するたたかいの強化は急務である。われわれは全国各地で派兵反対闘争の前進と高揚をつくりだし、これをアジア・第三世界人民との国際連帯闘争と固く結合するために全力をあげなければならない。PKO法案をはじめとした自衛隊海外派兵三法案の成立を阻止し、日比両国の大衆運動組織によって共同決議された「「10月国際会議」の大成功をかちとるために、たたかう労働者・学生は総決起せよ！」

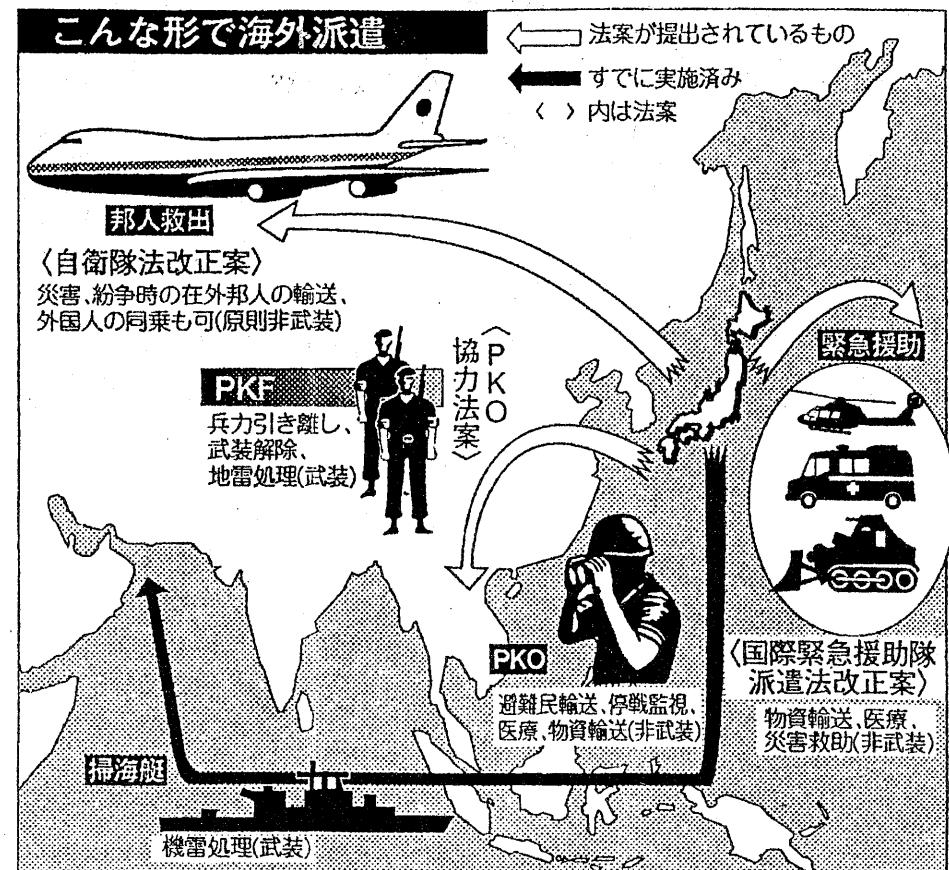
PKO派兵を阻止せよ

第一に、カンボジアPKOを領導することによって日帝は、アジア・第三世界諸国を支配する帝国主義としての位置を確立しよとしている。日帝は、これまでアジア・第三世界諸国で強力な経済的支配を確立することに成功してきたが、公然と政治的・軍事的にこれらの国々に介入していくという点に関しては米帝にくらべて非常に限られたものであった。日帝はカンボジアPKOの領導をもって、まさにアジア・第三世界諸国への公然たる政治的・軍事的介入と干渉に本格的に踏みだしたのだ。

第二に、カンボジアPKOを领导することによって日帝は、東京で開催し、UNTACの代表者として明石を送り込み、PKFへの一千名の自衛隊の派兵をも含めてカンボジアPKOを領導しようとしている。このことは、次のふたつの意味でアジア・第三世界人民全体にとってきわめて重大なことである。

第三に、カントンペーン政府とポルボト派の双方を威圧することによって、カンボジアの社会主義を解体しつくすための軍事力に他ならない。

日帝は、昨年カンボジア各派の代表を集めた国際会議を東京で開催し、UNTACの代表者として明石を送り込み、PKFへの一千名の自衛隊の派兵をも含めてカンボジアPKOを领导しようとしている。このことは、次のふたつの意味でアジア・第三世界人民全体にとってきわめて重大なことである。



海外派兵3法案を廃案に

(▲3月27日付
朝日新聞より)

自衛隊を駐留させていくための条件をつくりだしていくことを狙ったものであった。こうして駐留を開始した自衛隊は、日帝の海外権益が脅かされる時にはまさに侵略の軍隊としての本性をむきだしにして、その銃口をたたかうアジア・第三世界人民に向けるであろう。

このような重大な事態を迎えて、われわれは次のことをしてかりと見ておかねばならない。すなわち自衛隊（日本軍）の派兵策動は、自民党政府の一過性の反動政策の一つという性格のものでは絶対にありえないということである。日本帝国主義は、今日の日本帝国主義を帝国主義たらしめている膨大な海外権益を防衛するために、軍隊の出動をどうしても必要としているからである。強化されるアジア・第三世界における日帝の新植民地主義支配の結果として、派兵策動との対決は、この時代において、すべての労働者・学生・活動家が首尾一貫して担わねばならない第一級の闘争課題である。そしてそれは、必ずアジア・第三世界人民の反日帝闘争と結合したたたかいとして組織されていかなればならない。日本帝国主義がアジア・第三世界における盟主として政治的支配を強め、自國軍隊を海外に派兵しようとしているこの時代に、アジア・第三世界人民の反日帝闘争と結合した国際的な反帝共同闘争を組織することが、すべてのたたかう人民に決定的に問われている。

戦前のアジア侵略戦争に至る過程において、日本人民がこうむった敗北をわれわれは決して忘れてはならない。かつての日本人民の敗北の教訓のひとつは、当時の日本プロレタリアートが、日帝の植民地支配からの解放を求めてたたかうアジア人民と日本人民との恒常的な共同闘争と階級的団結を形成することに結局は失敗したという点に求められねばならない。この歴史的教訓を踏まえ、われわれは今日の時代において、かつての敗北の実践的突破をはたさなければならないのである。

ソ連・東欧における社会主義の崩壊以降、米帝・日帝・EC帝による世界支配にむけた策動は、その内部に大きな矛盾をはらみつつも一挙に激化してきた。アラブへの侵略戦争（湾岸戦争）を通してイラクを叩いた国際帝国主義は、帝国主義によるアラブ支配を確立するためにPLOとリビアに対する包囲を一挙に強めている。また、中南米においては何よりもキューバに対する社会主義解体攻撃が一層露骨になってきて

烽火

月刊

1部 200円
(通常号)

取り扱い書店

- 北海道／ひらひら(札幌市北区) ● 東京／明治大学生協
- （東京都千代田区）模索舎（同・新宿区） ● 神奈川／ルビコン書房（川崎市中原区） ● 愛知／名古屋ウーニタ（名古屋市千種区） ● 京都／オテツサ書房（京都市左京区） ● 大阪／大阪ウータ（大阪市天王寺区） ● 鈴書林（同・北区） ● 関西大學生協（大阪府吹田市） ● 兵庫／神戸大学生協（神戸市灘区） ● 沖縄／沖縄舎（那覇市）

烽火の定期購読をおねがいします

■郵送（密封）1年分………3000円
2年分………5000円

お申しこみは大阪戦旗社まで
■郵便振替
大阪 3-63333 高木一夫
■銀行口座
第一勧銀 515-1058150 高木一夫

「烽火」の定期購読をおねがいします

このように情勢のもとで、フィリピンの新民族主義者同盟（BAYAN）をはじめとする人民諸組織と日本人民の運動90（JPM90）は、「日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対するアジア人民の会議」（仮称）の創設に合意し、本年一〇月に開催することを決定した（『共同決議』を10ページに掲載）。昨年の秋、BAYANをはじめとしたフィリピンの人民諸組織は、米軍基地のアジアからの撤去を要求して国際ピースフェスティバルを開催し、さらには日本人民のたたかいで連携して自衛隊の海外派兵—PKO法案への抗議行動をマニラの日本総領事館前で組織した。これらのたたかいで成功の上に、アジアにおいてもついに米日帝国主義による第三世界人民への支配に反対する国際共同闘争が本格的に始まるとしているのだ。

「アジア人民の会議」の創設に向けた一〇月国際会議の開催は、ソ連・東欧における社会主義の崩壊以降の新たな時代において、ますます強まる帝国主義の攻勢に対してもうけられた反撃の烽火である。一〇月国際会議は、ア

ジア人民の名において日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対することを宣言するであろう。民族と国境の壁を越えて、日米帝国主義による軍事同盟と日本軍の海外派兵とたたかう国際共同闘争の開始を宣言するであろう。そして、アジアにおける人民の新たな国際的統一戦線の創設を高らかに宣言するであろう。われわれは、日本の先進的労働者人民が一〇月国際会議の成功のために奮闘することを呼びかける。

（ひらひら）

このような情勢のもとで、フィリピンの新民族主義者同盟（BAYAN）をはじめとする人民諸組織と日本人民の運動90（JPM90）は、「日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対するアジア人民の会議」（仮称）の創設に合意し、本年一〇月に開催することを決定した（『共同決議』を10ページに掲載）。昨年の秋、BAYANをはじめとしたフィリピンの人民諸組織は、米軍基地のアジアからの撤去を要求して国際ピースフェスティバルを開催し、さらには日本人民のたたかいで連携して自衛隊の海外派兵—PKO法案への抗議行動をマニラの日本総領事館前で組織した。これらのたたかいで成功の上に、アジアにおいてもついに米日帝国主義による第三世界人民への支配に反対する国際共同闘争が本格的に始まるとしているのだ。

（ひらひら）

反帝 国際統一 人民の共同の

第一には、自衛隊の海外派兵に反対してたたかうすべての日本の労働者人民を、アジア・第三世界人民のたたかいへの連帯へ、とりわけフィリピン革命への連帯へと組織していくことにある。フィリピン革命は、アジアにおける最大最強の革命運動であり、そうであるがゆえに国際帝國主義による徹底した鎮圧攻撃に直面している。米帝は、フィリピンをLIC戦略の最大の戦場と位置づけてきた。また自衛隊の海外派兵の長期的な照準もまた、フィリピン革命の鎮圧に向けられている。このようなフィリピン革命を防衛し、アジア人民の力を結集してその勝利を実現していくことはさし迫った課題となっている。

第二には、自衛隊の海外派兵に反対してたたかうすべての日本の労働者人民を、アジア・第三世界人民との連帯とともに、日帝との正面戦へと領導することにある。帝國主義による支配のもとで飢えと貧困を強制され、日本軍（自衛隊）の銃口を向けられようとしているアジア・第二世界人民は、このような日帝に対する正面戦へと日本人民が立ちあがっていくことをこそ要請している。この要請に真正面から応え、国際主義に立脚した日帝とのたたかいへとすべての日本労働者人民を領導するために今こそ立ちあがらねばならない。一〇月国際会議の成功に向けて共にたたかわん！



ふたたびアジア侵略への出兵を準備する日本軍—自衛隊

北部ルソン爆撃統報

昨年、本紙四三二号で詳報した北部ルソン爆撃問題に関する続報がとどいた。今も北部ルソン、コルディレラ解放区は、フィリピン国軍の無差別爆撃にさらされ続けている。断続的に続けられてきた敵軍の爆撃は、今年に入って激化の一途をたどり、コルディレラ解放区に投下された爆弾はすでに一〇〇〇発にのぼるという。

コルディレラの革命的人民は訴える。「まさに戦争状態である。しかし、われわれは、どれほど痛めつけられようとも決して屈しない。われわれの革命の後ろには、全フィリピンの搾取され奪われる人民がいる。われわれに統いて、全世界の兄弟姉妹が帝国主義との闘争に続々と決起されることを!」。

解放区壊滅作戦

北部ルソン地方の革命組織であるコルディレラ人民民主戦線(CPD F)は、「敵の攻撃の規模は、もはや少数民族絶滅政策(エスノサイド)としかいよいのないものです。そして事の本質は、フィリピン最大最強のコルディレラ臨時革命政府(P RG)と解放区の壊滅なのです」と述べている。

無差別爆撃と兵糧攻め

政府の基本構造=農村解放区を壊滅することである。すなわち、①解放区とその周辺を攻撃し、強固な解放区農民をたき出し、NPAへの支援基盤を破壊し、②中間的な農民たちを脅しつけデマや中傷を駆使しNPAから離反させ、③NPAを村に帰れなくした上で、NPAが他の土地に移ることを阻止し、食料・医療品を途絶して、解放区人民もとも、飢えと病氣で衰弱させていこうといふものである。

一九九一年の暮れから今年にかけてのレッド・リップス作戦は、その一典型であった。この作戦は、「NPAの本拠地」と敵軍から指定された「民間人のいない無人の土地」と宣言されたルソン島最北端マラッゲ渓谷を攻撃対象としたものであった。この作戦下で、同渓谷沿いの三つの町・六つの村の三〇〇家族二〇〇〇人が強制移住・隔離させられた。住民たちは国軍から「NPAへの協力をやめる」との激しいやがらせを

動きは、共産主義の邪悪さを住民に植えつけるための集会や儀式と組み合わされている。やがて敵の側のまわりかしの開発計画が持ち込まれ、地域の復興の真似事がなされるだろう。

臨時革命政府防衛せよ

一九八七年にアキノ政権が「NPA絶滅五ヵ年作戦」を決定して以来、ルディレラ北東部を東西に貫く軍事封鎖ラインを敷き、コルディレラの最北端に位置するマラッゲ渓谷から南下して退却せんとするNPAの退路を絶ち、NPAを一定の地域に封じ込め、攻撃を集中し弱らせるためのものであった。

CPDFは語る。「当初、『ゲリラせん滅五ヵ年計画』として始まったこの一連の軍事作戦は、NPAの短期的壊滅が不可能なことを知るや、NPAと解放区に対する軍事作戦は常態化してきたのです」。

日米帝の反革命戦争

軍事封鎖ラインによる徹底した物質的窮屈の強制に加えて、敵軍の攻勢の新しい特徴が、もう一つある。すなわち、「ソフト・アプローチ作戦」と呼ばれる、金の力を背景にした人民への懷柔政策が強められていることである。これは五十人ほど

の国軍兵士たちが村に入り込み、人々の仕事・水汲みや伐採を手伝い、ある時は子供たちと遊んだりさえする浸透作戦である。また生活苦を逆手にとって、家畜などを農民から買取り、代金を普通より多めに支払うなどの買収も行われている。これらの

その主たる財源が、日本のODAを通じた反革命援助であることは言を待たない。

CPDFは語る。「軍さえ妨害しなければ、人民は自己の生活を自分で切り開く力を十二分にもっていることを、人民自身よく知っています。それをじやますことによって利益を得るのは誰なのか、これを明らかにすることが決定的に重要なことです。

敵の政治工作に対抗すべく、政治的なキャンペーンを強めて、住民の政治意識・思想を強固にするための活動を、われわれは非常に重視しています」。

CPDFは語る。「軍さえ妨害し

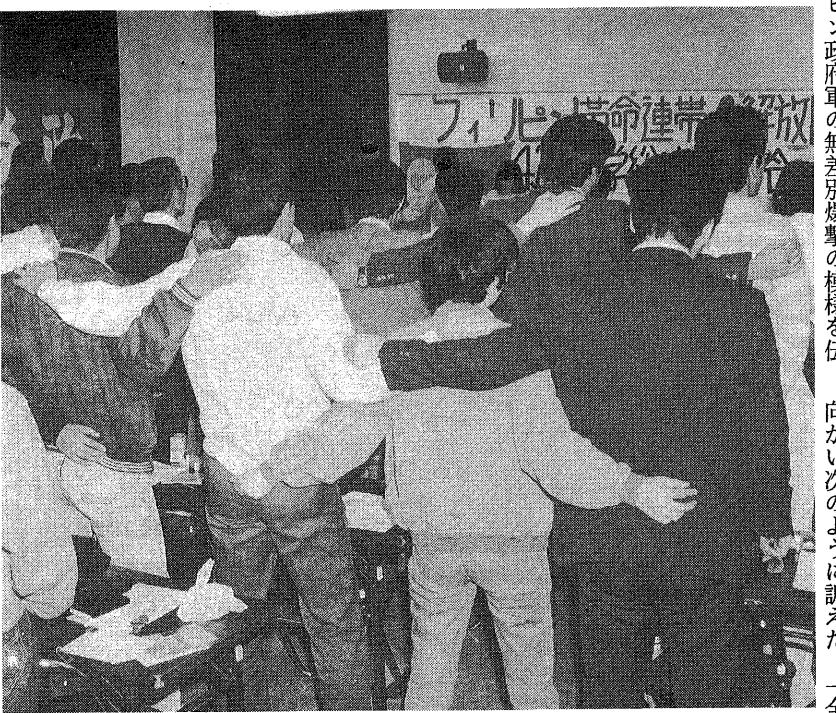
なければ、人民は自己の生活を自分で切り開く力を十二分にもっていることを、人民自身よく知っています。

それをじやますことによって利益を得るのは誰なのか、これを明らかにすることが決定的に重要なことです。

敵の政治工作に対抗すべく、政治的なキャンペーンを強めて、住民の政治意識・思想を強固にするための活動を、われわれは非常に重視しています」。

CPDFは語る。「軍さえ妨害しなれば、人民は自己の生活を自分で切り開く力を十二分にもっていることを、人民自身よく知っています。

それをじやますことによって利益を得るのは誰なのか、これを明らかにすることが決定的に重要なことです。



フィリピン革命の防衛を確認した4・24集会（京都）

フイリピン革命への連帯掲げ 4・24労学総決起集会開かれる

四月二四日、全国労働者政治委員会と反帝国連帯学生委員会の共催で「フィリピン革命連帯・解放区防衛四・二四労学総決起集会」がおこなわれた。集会には、フィリピン革命に共感する学生や労働者が集結した。まず最初にフィリピン北部ルソン、コルディレラ地方で行われているフィリピン政府軍の無差別爆撃の模様を伝えるフィリピンのテレビ局作成のビデオが上映された。つづいてコルディレラから来日した同志が、結集した日本の活動家たちに訴えるべく登壇した。同志は、現在次々と名前を変えて繰り広げられている政府軍の軍事作戦の現状とその被害の深刻さを詳しく報告した上で、あらためて会場の全参加者に向かい次のように訴えた。「全面戦

ローガンとは「コルディレラは売り物じゃない！」である。CPDFは訴える。「政府一国軍は、森林の中に潜むNPAの伐採業は、森林の中に潜むNPAの伐採業」。

日帝との正面戦に立てる

コルディレラから産出する鉱物資源や森林資源など天然資源の最大の買手は、他ならぬ日本ブルジョアジーである。フィリピン政府の黙認のう

ちに多くの非合法伐採・非合法採掘業者が暗躍し、これらと結びついた多国籍企業や、巨大な国家プロジェクトの利権に日本ブルジョアジーが

命的人民を絶滅させるという敵の全面戦争政策の眞の目的であり、この反革命とのたたかいこそが徹底して強調されなくてはならない」。

深く連なつてゐることは、フィリピ
ンではすでに公然の秘密である。わ
れわれが日本帝国主義を憎み、その
搾取と収奪を根絶せんとしたかうこ
とと、フィリピン革命勢力の防衛の
ために連帶戦に立ち上がるることは、
切つても切り離せない一つの問題で
ある。

帝国主義本国の人民として、自己の
豊かさが第三世界から來ることと
を知つてくれ。そしてこの豊かさを
捨てるのことを恐れずに、帝国主義と
の闘争とともに決起してくれ」と。
この訴えに応えることは、われわ
れの責務である。

アキノ政権と日米政府に抗議を！

CPDFは訴える。「このゴルディ
レラから革命的人民を文字通り根絶
やしにすることを狙った敵の攻勢は、
自己の営利のために人民を踏みにじ
ることを当然とする勢力によって古
今東西を問わず繰り返されてきた反
革命戦争なのだ。そして重要なこと
ともにたたかわん！」

たたかう人民組織に激励を！臨時革
命政府－解放区－NPAにありとあ
らゆる物質的精神的支援を！そして、
フィリピン革命連帯－解放区防衛の
たたかいと結合し、日本帝国主義と
の正面戦に立ち上がるう！

は、こういうことは決してフィリピンでだけ起こっているのではなく、第三世界のあちこちで起こっている現実だということだ。あなたがたは

この闘争への決意を述べるものであつた。東京からメッセージを寄せた「階級的労働運動と連帶する会」は「抑圧し差別する側の国民として生まれ育つてきた私たちは、自分たち自身の人間としての解放をかちとるためにも、皆さんのたたかいを支援し連帯していく決意です。(中略)帝國主義を打倒するその日まで命あるかぎりたたかいつづけていきます。」と述べた。多くの発言の最後に、主催団体である反帝国際連帯学生委員会と全国労働者政治委員会の決意表明が行われた。

このことを片時も忘れないで、この
ような生活を捨てることを恐れずた
たかってくれ。」と。さらに「とく
にPKOを通じた自衛隊の海外派兵
とたたかってくれ」と強調した。

このあと質疑においては、「フィ
リピン人民は、どのようにして臨時
革命政府を運営しているのか」「農
村解放区の防衛にあたっている若者
たちの武装組織ミリシア・バヤンと
はどのようなものか」「CPDFの
活動家たちの生活は、どのようにし
て支えられているのか」「CPDF
のたたかいやフィリピン革命運動全
体の中で、先住民族の解放はどのよ
うな位置をもつのか」など率直な質
問が出され、討議が交わされた。

集会の後半は、参加団体や、この
セーボーが相次いだ。その多くは、コ
ルディレラの同志が強く訴えた日帝
受けて、四・二四集会共同宣言が、
これら諸団体の熱い連帯の発言を
の名において読み上げられ採択され
た。そのあとコルディレラの土着の
武器である槍と楯と斧、それに新人
民軍が握る武器M16銃が組み合わさ
れたコルディレラ新人民軍旗が、集
会参加者すべてが寄せ書きした檄布
と交換され、固い握手が交わされた。
職場、地方、戦線は離れていても、
フィリピン革命に共感し、その防衛
のために力を尽くそうとする日本人人
民の共同の一歩と、海を越えた日比
人民の革命連帯の新しい一步は確かに
ここから踏み出されたのである。

足もとから 烽火あげよ

沖縄をじつまく新状況

いま「復帰」10周年を迎える沖縄人民の前に、まったく新しい時代が幕をあけようとしている。ソ連の崩壊によつてもたらされたいわゆる「冷戦の終結」とは、決して帝国主義者が吹聴するような「平和な時代の幕開け」ではない。

沖縄人民が直面する新たな時代とは、まぎれ

はじめに

本年五月一五日、沖縄が日本に「返還」されてから二〇年を迎える。

沖縄は戦後一貫してアメリカ帝国主義の侵略反革命前線基地としての役割を課せられ、沖縄の労働者・人民は暴力的な米軍政支配のもとで多くの犠牲と抑圧を強いられてきた。戦後、沖縄人民は米軍政支配と対決し、米軍政打倒・基地撤去の希望を託して復帰闘争をたたかった。七年五月一五日、沖縄の施政権は米帝から日本へと移行した。しかし「復帰」から二〇年たつたいま、沖縄人民はいまだ基地被害に日常的に

県政をも巻き込みつつ、この先一年間にわたる二〇周年キャンペーンを大々的に展開しようとしている。「沖縄返還」10周年記念行事実行委員会は、さたる五月一五日、沖縄および東京で天皇列席のもとで記念式典を開催しようとしている。さらに記念硬貨や記念切手の発行、今秋の首里城復元など官民諸レベルでのイベントが計画され、来春の沖縄植樹祭への天皇訪沖が一連のキャンペーントのしめくくりとして位置づけられている。

沖縄労働者人民にとって「復帰」10周年」とは、まさに怒りなくしては迎えることのできないものである。この二〇年、沖縄の軍事基地は強化される一方であった。垂直離着陸機ハリヤー

の基地建設強行、都市型ゲリラ訓練施設の建設強行、軍事演習の強化、フィリピンからの米軍機（航空部隊）の嘉手納移駐など、沖縄人民の反対をおしきって基地強化がおし進められてきた。湾岸戦争時には在沖米軍基地は、兵員や軍事資などの輸送・中継のみならず、軍事作戦の中核部隊の出撃拠点となつた。米海兵隊員八千人が兵員輸送ヘリコプターとともに中東に送り出され、米海兵工兵隊、米陸軍特殊部隊（グ

リーンベレー）も沖縄から出動した。攻撃機や戦闘機を指揮するE3A早期警戒管制機、空中給油機KC-135などの米空軍部隊も出撃した。これらは沖縄が、帝国主義権益の防衛のための世界的な軍事出撃網にますます強く組み込まれたことを明らかにしている。湾岸戦争時ににおいて日米帝国主義は、現行の安保条約の取り決めの枠（安保条約第六条—いわゆる極東条項。日本およびアジアにおける戦争に米軍が在地を世界中どこへでもいつでも出動できる帝国主義の軍事拠点、文字通りの侵略反革命戦争出撃拠点として公然と機能するものにしてしまった。日米帝は第三世界への侵略と新植民地支配を支えるために、これに真っ向から抗する反帝民族解放・社会主義勢力に対する反革命鎮圧の軍事同盟として日米安保体制を再編し、在沖・

在日米軍基地をますます強化しようとしている。

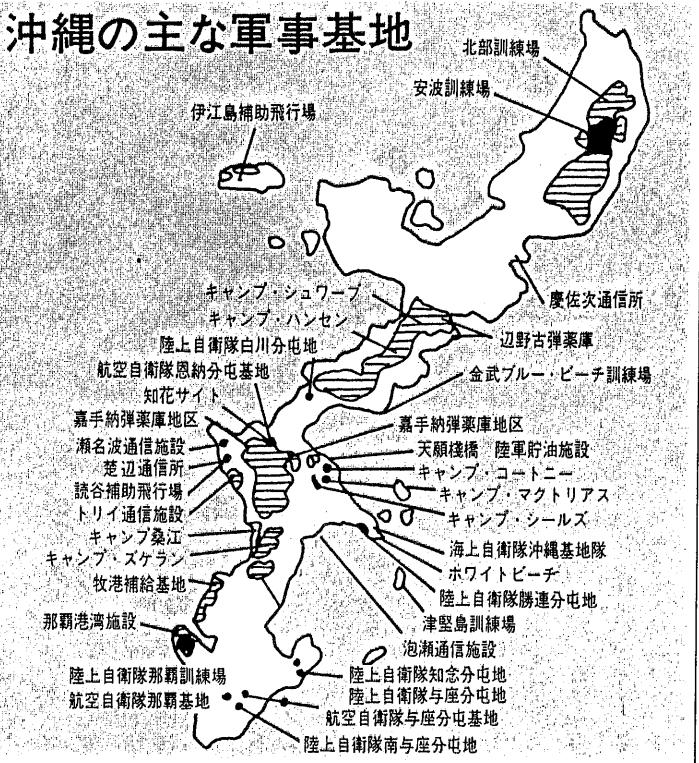
本年一月のアジア歴訪の中で米帝・ブッシュは「ソ連消滅後の新たな世界の課題として、地域紛争への対処を軸にした平和の維持が要となる…」

（シンガポールでの演説）と主張し、アジア・太平洋地域において将来とも前方配備戦力を強化し続けるという米帝の強い決意を打ち出した。日本帝国主義も米帝の軍事戦略に沿いながら独自の防衛・拡大のための軍事出動＝自衛隊派兵を実現しようともくろんでいる。

われわれ日本の労働者人民は、かつてアジア侵略の尖兵へと動員されてしまつたという痛苦な歴史の総括に踏まえ、今こそ国際主義の旗色を鮮明にしたたかいで構築していくしかねばならない。アジア・第三世界の反帝民族解放・社会主義革命のたたかいと固く結びつき、再び日本軍がアジア侵略へと出兵していくことを何としても阻止していくしかなければならない。

沖縄の先進的な労働者人民のみなさん。アジア諸国の労働者人民とともに、反帝国際統一戦線の建設へと踏み出そう！ 日米安保同盟と自衛隊（日本軍）の海外出兵とたたかい、日米帝国主義の侵略反革命前線基地強化と対決する国際主義政治闘争を沖縄に建設しよう！ 反革命的な「復帰」10周年」キャンペーンと正面から対決するプロレタリア国際主義の大道を沖縄に打ち立てよう！

「復帰」20周年



侵略基地の 国際連帯の

激化する軍事連帯



「」の支配圏として確立していくことにある。

今や日帝は、第三世界とりわけアジア諸国において米帝との経済的競争に勝利し、アジア諸国民を収奪・搾取する最大の帝国主義となつた。帝国主義による支配からの解放を求めるアジア・第三世界人民は、いよいよ日本帝国主義の打倒という旗を高く掲げようとしている。今は今、カンボジアPKOへの自衛隊の派兵を水路として、アジア・第三世界諸国への本格的な自衛隊の駐留を実現しようとしている。そして、日帝に経済的に従属する各国の支配階級の一部からでは、カンボジアPKOへの自衛隊の派兵を歓迎し、フィリピンの米軍基地撤去後の東南アジアにおける軍事的空白を日帝が埋めていくことを期待するという見解すら生まれ始めている。アジア・第三世界人民のたたかいが日帝の海外権益を脅かす時、こうして駐留した自衛隊は侵略の軍隊としての本性をむき出しにし、アジア・第三世界人民にその銃口を向けるであろう。

この反対は、帝国主義による第三世界人民への支配が打倒され、帝国主義によって支配された世界が根底からくづがえされるまで決して止むことはない。そして、第三世界人民はこ

のたたかいの途上において、社会主義・共産主義の旗を自らの解放の希望として必ずや再び高揚するであろう。

だからこそ帝国主義各国は、経済的にはますます激しく対立しつつも、第三世界人民の反抗とたたかいを鎮圧するための政治的・軍事的同盟を決して解体しようとはしない。アジアにあっても米帝と日帝は、日米軍事同盟を第三世界人民の反抗を鎮圧するため、より攻勢的で機動的な軍事展開を可能とするものへと再編・強化しようとしているのである。

沖縄人民が直面する新たな時代とは、また次のものである。日本帝国主義は、いよいよアジア・第三世界諸国への本格的な海外派兵の道に踏みだした。その目的は、アジア・第三世界諸国にますます拡大する日帝の海外権益を日帝独自の軍事力によって防衛できるようにすることであり、アジアを経済的・政治的・軍事的に自

アジアの声に心えりよう

沖縄人民が「復帰」10周年において問われていることは、このような新たな時代にあって誰と結合し、どのような道へと進むのかということにある。そして言うまでもなくこのことは、日本人民全体が厳しく問われていることである。

沖縄人民の眼前には、今ふたつの道が存在している。ひとつは、日帝が敷きつめようとしている侵略反革命前線基地強化の道である。

この道は、日帝の侵略反革命戦争へと沖縄人民が動員され、再びアジア・第三世界人民を日本軍の軍靴でもって蹂躪していくことへとつながっている。いまひとつは、アジア・第三世界人民とりわけ反帝民族解放・社会主義革命勢力と連帯し、自衛隊の海外派兵へと向かう日帝との正面戦へと立ちあがっていく道である。そして、この道こそが沖縄人民の進むべき大道として、沖縄階級闘争のただ中に確立されていかね

ばならない道なのである。すべての沖縄の先進的労働者人民は、この大道へと沖縄の広範な人民をいざなっていくための新たたたかいに今こそ立ちあがっていかねばならない。

この時アジアでは、帝国主義による支配とたかう反帝国際統一戦線を創設しようとする新たたたかいが始まっている。去る四月初め、二五〇万人を擁するフィリピンの大衆組織の統一戦線である「新民族主義者同盟」(BAYAN)と日本の左派労働組合を中心にしてつくられた「ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動90's」(JP90's)は、「日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対するアジア人民の会議」という

新たなアジア人民の国際統一戦線の創設に向けて共同の努力を開始することを決定した。そして、フィリピンと日本をはじめとしたアジア各國の大衆組織に呼びかけ、きたる一〇月にこの「アジア人民の会議」の創設に向けた国際會議を開催することを決定した。

この新たにたたかいの持つ意義は、きわめて重大なものである。ソ連・東欧における社会主義の崩壊以降、世界を好き放題に支配しようとしてきた帝国主義者どもへの国際的な共同の反撃がついにアジアにおいて開始されたのだ。日本軍事同盟と日本軍の海外派兵とたかうアジア人民の国際共同闘争が、ついに始まつたのだ。

「自衛隊の海外派遣をアジア各国の政府や国民は理解・支持している」などという帝国主義の宣伝が、いかに嘘と偽りに満ちたものなのかもははや明らかである。アジア・第三世界人民は、今や日帝を米帝とならぶ打倒すべき敵として認識し、自衛隊の海外派兵を阻止するために厳しい弾圧状況のもとでも可能なかぎりのたたかいを組織しようとしている。そして、日本人にこう呼びかけているのだ。あなたたち日本人は、第一次大戦において日帝のアジア侵略戦争を阻止することができず、アジア諸国を軍靴で踏みにじった。再びこのような敗北を喫することは絶対に許されない。アジア・第三世界人民は、たたかいで連帯し、今こそ日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対する国際共同闘争に

新たなアジア人民の国際統一戦線の創設に向

立ちあがれと。

われわれは、新たな時代にあって沖縄人民のたたかいの前進を切りひらこうとするすべての先進的労働者人民に一〇月国際會議への結集を呼びかける。そして、フィリピンのBAYANを始めとするアジア各国の大衆組織とともに、「アジア人民の会議」を創設していくたたかいに結集するように呼びかける。

戦前、日本人民は日帝のアジア侵略と日本軍の海外派兵を阻止するために全力でたたかうことを求められていた。しかし戦前には、アジア人民と日本人民の長期的で組織的な連帯を發展させていくための国際連帯機構は実際に存在せず、アジア人民と日本人民が大衆的に参加できる国際共同闘争もまた存在しなかつた。このことそこが、日帝のアジア侵略戦争を阻止することができなかつた重大な根拠となつたのである。だが、今度は違う。再び日帝が自らの軍隊をアジア・第三世界へと派兵しようとする時、日本人民はアジア・第三世界人民との国際共同闘争をもつてこの前に立ちはだかることができるようになるのだ。このことこそ、日本人民全体にとって未来への希望であり、「復帰一〇年」を迎えて重大な局面に立つ沖縄人民のたたかいの未来への希望となるものである。

すべての沖縄の先進的労働者人民は、一〇月国際會議と「アジア人民の会議」の創設への結集を通して沖縄人民の進むべき道を鮮明に示していかねばならない。

この課題を実現するために、国際主義の継承・発展は決定的に重要である。また同時に国際主義の継承・発展は、沖縄階級闘争の次の前進を切り開くためにも絶対に不可欠である。

「復帰」から一〇年の間に沖縄は政治的にも、経済的・社会的にも日本本邦の一地方として再編されてきた。「本土」との格差はありつも今や沖縄労働者人民もまた帝國主義本国内の人民として、大なり少なり日帝のアジア・第三世界労働者人民のたたかいとの連帯・結合なくしてはもはやありえないといつて過言ではない。国際主義政治闘争と、そのための組織を沖縄に建設していくことが緊要の課題となつていて。さて以上を踏まえ、われわれは「復帰一〇周年」にあたり、次の任務を沖縄の先進的労働者人民が掲げてたたかうこと訴える。

第一は、沖縄人民をアジア・第三世界人民のたたかいへの国際連帯へと広範に組織していくことである。アジア・第三世界諸国への日帝の



PKO法案に反対する沖縄人民
(91年12月8日)

沖縄労働者人民の最大の課題であり、アジア・第三世界の労働者人民の強い要求である日帝の侵略反革命戦争を本格的に準備しつつある今日、この沖縄階級闘争の歴史の中で生み出された国際主義の最高の地平は、現在の沖縄階級闘争のただ中に復権し継承・発展させられていかねばならない。

沖縄労働者人民の最大の課題であり、アジア・第三世界の労働者人民の強い要求である日帝の侵略反革命戦争を本格的に準備しつつある今日、この沖縄階級闘争の歴史の中で生み出された国

帝の侵略反革命前線基地たる沖縄基地の粉碎と

用地強奪にみられるような強権的な攻撃が強化されている。軍用地強制使用に関する公開審理の場で日帝・防衛施設局は、日帝の海外権益を防衛するためには日米安保体制が不可欠であると公然と主張した。彼らは、米軍基地が日本の「国益を確保する上で重要であり高度の公共性」を有していると、軍用地の強奪を正当化したのである。

このような中で「沖縄革新」と呼ばれた既成の運動の内部に、侵略・反革命前線基地の島として沖縄をうち固めていこうとする日帝の中心的攻撃とのたたかいから沖縄人民を遠ざけ、基地周辺整備資金獲得などを運動の目標として掲げた沖縄労働運動においても、「連合」の制圧に見られるように帝國主義的労働運動の影響が広がり始めている。

帝國主義的排外主義のもとへ沖縄人民を統合していくこうとする攻撃が強まり、これへの屈伏が広範に進行するという状況の中で、沖縄階級闘争のさらなる一步の前進を切り開いていくため国際主義を復権し、その継承・発展をかちとついくことが不可欠となつていて。沖縄における階級闘争の前進は、アジア・第三世界の労働者人民のたたかいとの連帯・結合なくしてはもはやありえないといつて過言ではない。沖縄に

さえて以上を踏まえ、われわれは「復帰一〇周年」にあたり、次の任務を沖縄の先進的労働者人民が掲げてたたかうこと訴える。

第一は、沖縄人民をアジア・第三世界人民のたたかいへの国際連帯へと広範に組織していくことである。アジア・第三世界諸国への日帝の

三里塚現地に450



反PKO闘争との結合を!

四月五日、空港粉砕・二期阻止を掲げた反対同盟主催の三里塚現地集会が行われた。集会には、全国から労働者・学生・市民四五〇人が結集した。折からの強い雨の中、反対同盟、共闘団体の報告、決意表明が行われ、政府の二期工事強行の姿勢にに対する抗議が相次いだ。

これがなお有効であるとする政府の見解を弾劾する立場においては全体で共通していたことがひとつ特徴であった。そのうえで、反対運動の前進をめぐって、シンボジウムそのものの内容を、社会全体の変革と結びつけた内容の論争としてすすめるべ

集会発言の中では、公開シンポジウムをめぐって多様な意見が出されましたが、事業認定二〇〇年を過ぎてもそれがなお有効であるとする政府の見解を強効する立場においては全体的に共通していたことがひとつ特徴であった。そのうえで、反対運動の前進をめぐって、シンポジウムそのものの内容を、社会全体の変革と結びつけた内容の論争としてすすめるべ

さまとする発言や、あるいは、現地行動と全国各地の闘争の結合を強調する発言などが多く出された。さらに、PKO法案の上程の動きの中で、PKO軍事がPKO派兵の拠点化されようとしていることを踏まえて反PKO闘争の一翼として三里塚闘争の発展をかちとするべきとする発言もなされた。

これらの発言を受けたのち、一期三里塚空港がPKO派兵の拠点化されようとしていることを踏まえて反PKO闘争の一翼として三里塚闘争の発展をかちとするべきとする発言もなされた。

三世界人民の武力抗議なくされていゝ人々が家を失ふことのない世界をめざす義の支配を根底にこのうねりと固い統一戦線の一翼としての発展をかちとろう。

支配下に置かれてゐる。また帝國主義の権益争いの中では、二一〇〇〇万人の人々が家を失い、難民生活を余儀なくされている。しかし同時に第三世界人民の武装闘争を含めたたかいは巨大なうねりとして、帝国主義の支配を根底から揺さぶっている。このうねりと固く結合し、国際反帝統一戦線の一翼へと三里塚闘争の発展をかちとろう。

進出・侵略の急速な展開にともなって、その対極に労働者を中心とした「フィリピン・沖縄を繋ぐ会」やキリスト者を中心とした運動など、国際的な労働者連帯を追求する運動が沖縄においても生まれてきている。このような新しい運動に注目しこれを支持し、そのさらなる発展と前進をめざすために先進的労働者人民は奮闘しなければならない。同時に諸領域で展開されている日帝に対する沖縄人民の抵抗戦を、国際連帯闘争と結合させていくために奮闘せねばならない。帝国主義的排外主義とのたたかいの前衛を反天皇制闘争として担っている知花闘争や、反戦地主を先頭にねばり強くたたかい続けられない。これらのたたかいで、国際連帯運動に結びつけている反基地闘争、あるいは「連合」支配下で階級的労働運動のために苦闘している沖縄労働者たたかいなどを、国際連帯運動に結びつけていく不斷の努力がはらわれねばならない。

第二は、第三世界の革命に連帯する運動、とりわけフィリピン革命に対する連帯運動を重層的につくりだしていくことである。フィリピンの人民の革命運動は、アジア・第三世界における

て先進的労働者人民は、沖縄人民とフィリピン人民の國際連帶を重層的につくりだしていくかねばならない。帝国主義による支配のもとで耐えがたい飢えと貧困にあえぐフィリピン人民への人道的な連帯から、解放区において英雄的なたたかいを続ける新人民軍への連帯に至るまでの、フィリピン人民のたたかいとの連帯へと沖縄人民を組織していかなければならぬ。

第三は、第三世界革命連帯を内包する反帝国連帯闘争の広範で強力な組織を沖縄に建設し

わが共産主義者同盟（全国委員会）は、沖縄の先進的労働者人民とともにこれら國際主義のための緊要な事業を全力でおし進める決意である。そしてまた、進行する日米帝国主義による沖縄基地の強化、日帝による海外派兵策動に対し、「本土」—沖縄を貫く國際主義政治闘争の大前進をもってたたかいぬく決意である。ともにたたかおう！

最大最強の革命運動である。同時にそれは、ソ連・東欧における社会主義の崩壊にもかかわらず、社会主義・共産主義こそが人民の解放を真に実現できることを提起し続けている革命運動である。だからこそ、帝国主義はフィリピンをLIC戦略の最大戦場として位置づけ、フィリピン革命を鎮圧するために集中した攻撃をおこなってきた。ソ連・東欧における社会主義の崩壊以降、沖縄の侵略反革命前線基地の照準は、はつきりとフィリピンにおける革命運動の鎮圧に向けられてきている。このような状況にあって先進的労働者人民は、沖縄人民とフィリピン

ていくことである。「本土」で開始されたたかいと結合して、一〇月国際会議と「アジア人民の会議」のための運動とその組織がつくりだされていかなければならない。それは日米帝国主義の軍事同盟と自衛隊の海外出兵を打ち碎いていくための、アジア規模での反帝国際統一戦線の創建の一翼を担うものである。アジア・第三世界人民を支配し抑圧するために、日米帝国主義が沖縄基地をますます侵略反革命前線基地として強化しようとしている現在、こうした運動と組織が沖縄において建設されることの意義は限りなく大きい。

資料

日比2団体が歴史的決議

新民族主義者同盟(バヤン)と日本人民の運動90が、共通の政治諸課題にもとづくアジア人民の団結を促進するための共同の努力をおこない、この目的のために10月にアジア人民の会議を開催すること】に関する決議。

1992年4月2日

日本人民の運動90と新民族主義者同盟(バヤン)の連帯は、第一

に、「一九九一年一月の連帯協定の締結、第二に、「一九九一年九月のインターナショナル・ピース・フェスティバル(I P F P)への共同参加を通して確立された。

新民族主義者同盟(バヤン)と日本人民の運動90は、自立した人間的な社会と自由で平和な世界のために活動するという目的を共有している。第三世界諸国への日本と西側諸国による世界的な経済的搾取・介入・侵略が強化されているという状況の中で、上記の目的のために断固としてたたかっているすべての進歩的勢力および自決と民族解放を求める大衆運動との連帯をつくりだすとともに、新民族主義者同盟(バヤン)と日本人民の運動90を相互に強化していく必要がある。

新民族主義者同盟(バヤン)と日本人民の運動90は、日本およびフィリピン人民をはじめとするアジア諸国人民へ手をさしのべ、不公正で搾取的な体制と、第三世界諸國人民の政治的・経済的・文化的生活への侵略・介入・支配政策に抵抗するより大きな連帯をつくりだしていく必要がある。

新民族主義者同盟(バヤン)と

日本人民の運動90は、アジア・太平洋地域をはじめとして、帝国主義および世界の人民に強制されたあらゆる形態の抑圧と搾取に反対する国際的戦線を強化していくとともに、とりわけ、強まる日本の帝國主義的剥削に対するアジア人の民の団結をつくりだしていく必要がある。

以上にもとづき、新民族主義者同盟(バヤン)と日本人民の運動90は、以下のように決議する。

(1)新民族主義者同盟(バヤン)と日本人民の運動90は、アジア人民のあいだの連帯をつくりだし、日米軍事同盟と日本軍海外派兵といふ共通の政治課題にかんする共同闘争を発展させ、アジア人民の連帯を強化するという、アジア・太平洋地域のすべての進歩的勢力の共通目的に貢献するための協力関係を確立する。

(2)新民族主義者同盟(バヤン)と日本人民の運動90は、アジア人民の団結を表現するためのアジア規模の国際機構の設立に向かって共に活動する。このアジア規模の国際機構は、仮称を「日米軍事同盟と日本軍海外派兵に反対するアジア人民の会議」または「アジア

二年四月一日の「国際評議会」会議の直後に招集される。

最後に、われわれは、この新民族主義者同盟(バヤン)と日本人民の運動90による共同の努力と協力事業は、アジアの進歩的人民のあいだの団結・連帯・共同闘争をつくりだすプロセスを継続し、とりわけアジア・太平洋地域における帝國主義に反対する国際的戦線を強化していくために進められるべき多くの試みのなかのひとつであることを表明する。

(3)新民族主義者同盟(バヤン)と日本人民の運動90は、「アジア人民の会議」の設立を具体化するに合意する。「組織委員会」は新民族主義者同盟(バヤン)およびその主要構成階層組織と日本人民の運動90の代表者によって構成される。「組織委員会」は、一九九

○日本人民の運動90——小城修(世話人——洛南労組連を代表して)／武洋一(世話人——全日建連労組・関西生コン支部を代表して)／中岡基明(世話人——事務局長・自立労連を代表して)／丹羽雅雄(世話人——弁護士)／永井憲三(世話人——小原流労組)



(91年9月16日)
フィリピン

国際的な共同の反撃始まる



(91年9月16日)
フィリピン